



# Southern Cross 2016 No.6



The Japanese School in Perth  
パース日本人学校



2016年9月2日発行  
Web-site [www.japaneseschool.wa.edu.au](http://www.japaneseschool.wa.edu.au)  
e-mail: [info@japaneseschool.wa.edu.au](mailto:info@japaneseschool.wa.edu.au)

## 基礎基本

校長 春日二郎

8月26日、途中日差しも見えるなど、天気予報を覆し、スカボロ小学校との合同運動会が無事終了いたしました。最後まで熱心に応援いただき、本当にありがとうございました。

子どもたちは、どの種目にも全力を尽くすとともに、オーストラリアらしいおおらかな雰囲気も十分に味わえ、充実の一日となりました。



今年度より、日本人学校として取り組んだ踊り「よっちょれ」の初披露となりましたが、途中音楽が切れるアクシデントとなりました。観る方々からの盛大な手拍子をいただき、最後まで踊りきった子どもたちには大きな声援もいただきました。最後まで列も乱さず、振りを合わせ、声を出し、堂々と踊りきった日本人学校の子どもたちに誰もが感動し、そのエネルギーに勇気づけられました。

練習の時に、「踊りにアクシデントは付き物だから、たとえ音楽が途切れても踊り続けるように」と指導されてきましたが、実際に音楽が途切れたときに、よく踊りに集中できたと感心しました。

音楽のない不安よりも、踊りを体が覚えている自信と、仲間への信頼で乗り切ったのでしょうか。「覚えてたもん」「・・・ちゃんが前にいたから」と、口々に言うのでした。



一人一人が自信を持ち、仲間を意識し、達成感を味わいながら次の成長へのエネルギーとしていく光景を目の当たりにし、学校の果たす役割の大きさを改めて感じ、身の引き締まる思いをいたしました。

運動会の2日前、24日(水)に行われた避難訓練でも、同様の思いをしておりました。

2学期は地震を想定しての避難訓練です。揺れの合図とともに机の下に入り、非難の合図で先生に指示された通り、ハンカチを口に当て整然と校内を移動し、外へ出ると避難場所まで走って行きます。毎回言われている「おはしもち」を守った素早い避難でした。避難開始からほぼ3分以内で、避難・人員確認が終了します。子どもたちには、災害の少ないパースにいるけれど、世界のどこに行っても地震の危険があるので、もし何かあった時は避難訓練で身につけた冷静な行動が大切だと話をしました。自分の身につけたことに自信を持ち、仲間と協力して、被害を最小限に抑える行動のとれる大人に成長してほしいと願っています。

「よっちょれ」と避難訓練で見えてきたのが、「生きる力」の基礎基本を身につける子どもの姿でした。今の日本の教育で育つ子どもたちの力強さを頼もしく感じました。

折しも、避難訓練の行われた24日にイタリアで大地震が発生しました。熊本の地震とともに、被災地の早期復興を心よりお祈りいたします。

### ◆◆◆丸井淑美先生をご紹介します。

丸井先生は、27年間埼玉県の小中学校で養護教諭として勤務され、現在Cirtin大学で性教育を中心に研究をされています。先生からのお申し出もあり、ボランティアとして、JSPの子ども・保護者の皆様のお話相手に、先生のご都合の許す限り、放課後の時間に来ていただくことになりました。

学校での「保健室の先生」は、日常の健康管理とともに、頼りになる相談相手でもあります。

初回、12日(月)の放課後にアセンブリホールにおられます。お気軽にお声かけください。

# がんばった運動会

8月26日（金）、現地交流の一環としてスカボロ小学校との合同運動会を開催しました。この合同運動会は25年以上の歴史があり、毎年、両校が日本、オーストラリア両国の競技を通して親睦を深める貴重な場となっています。

今回は、最後まで雨に降られることなく全ての競技をやり遂げることができました。「よっちょれソーラン」では、音楽が途中止まってしまうハプニングがあったものの、子ども達は最後まで立派に踊り続けました。保護者の皆様におかれましては、練習の成果を発揮しようと頑張る児童生徒たちの背中を、温かい声援で押しいただき誠にありがとうございました。



## お知らせ

先日プリントでもお知らせしましたとおり、9月15日（木）～20日（火）の4日間、学期末個人面談を行います。お忙しい中とは存じますが、お時間をお確かめの上ご来校ください。短い時間ではありますが、児童生徒のさらなる成長に生かすことのできる、実のある話し合いにしたいと考えております。ご協力お願いいたします。

## JSPよもやま話

9月に入り、いよいよ春がやってきました。8月はオリンピックを見て、夜更かしや早起きをした方も多かったのではないのでしょうか。オリンピックが終わると、次はパラリンピックです。今年のパラリンピックには、昨年本校で講演をしてくださった、中田選手も伴走者として出場するので見逃せませんね。さて、このパラリンピックの選手たちですが、生まれながらに障害を持った人もいれば、事故などで障害を持った人もいます。しかし、パラリンピックの人たちは障害に負けずいつもチャレンジしているのです。その姿を見て、僕はアルフレッド・アドラーの言葉を思い出しました。

「やる気がなくなった」のではない。「やる気をなくす」という決断を自分でしただけだ。

「変わらない」のではない。「変わらない」という決断を自分でしているだけだ。

何かをやるかと頑張っても、うまくいかないこともあります。いえ、うまくいかないことのほうが多いと思います。そんなときに、どのような行動をとれるか。何かのせいにしてしまっ、「やれなかった」、「できなかった」という理由をたくさん見つけていませんか。アドラー曰く、「すべては自分の選択の結果であり、いくらでも選択を変えることは可能」とのことです。これから大人になるにつれて、周りから色々な「刺激」が与えられます。それに対してどのように「認知」して、意味づけて「反応」するかは人それぞれです。素敵な反応ができる人間でありたいという自戒の念も込めて、子どもたちの前でこの話をしました。（一二三）